

平成23年12月18日

空手道について

6段補受験

西東京本部
市川 靖夫

今回、宗家 岡田 先生 より、6段補を受験するようにとのお話を頂き、戸惑いと、嬉しさと、不安が膨らんでしまい、まごついてしまいました。諸先輩の技を見るたびに私の技がどれだけ出来ているのだろうかと考え、まだまだ練習が足りないなど考えています。5段受験の時は、もうこれで最後の受験かなと思い、西東京本部の皆さんに協力していただき自分の練習時間を作り練習してきました。が、今回は仕事の関係もありなかなか時間が取れず悪戦苦闘の日々、審査を一回延ばしていただき何とか受験にこじつけることができました。空手人生29年になりあと少しで30年目。私は空手を始めるというよりも 岡田 先生 の出会いそして、岡田先生のなんだかわからない魅力に魅せられたのがきっかけで空手の門をたたきました。その後、岡田先生の後ろ姿をおっかけながら必死に練習してきましたつもりです。でも岡田先生もまたパワフルに前に進み追い付くどころか、どんどん離されていきました。やはり岡田先生は凄い先生なんだと改めて認識させられました。作文「空手道について」のテーマは、私にとって岡田先生が好きで始めたせいかな岡田空手以外他の空手・格闘技はあまり興味を示しません。よって空手道という言葉もあまりピンと来ないのも事実です。ここに至るまでいろいろな人生の選択がありました。でも結果的に空手を続けてきたことが、強く前向きに進めてこれた一因だとおもいます。岡田先生の教えは、私にとって強い味方であり、そして勉強であり、友であり、家族のような気がします。もう技は、不器用なためなかなか覚えられないかもしれませんが、これからは私が教わった技を磨きながら、西東京本部練習生に伝えていきたいと思います。不器用な門下生ですが、これからもご指導の程宜しくお願いいたします。